

App Bridge
運用支援コマンドガイド
(Windows Agent 編)

Ver. 1.19.0

目次

1. 本書の役割	1
2. ChangeNotification コマンド	2
2.1 コマンド概要.....	2
2.2 コマンド格納場所.....	2
2.3 コマンド様式.....	3
2.4 リターンコード.....	3
3. Agent 起動コマンド	4
3.1 ツールの概要.....	4
3.2 コマンド格納場所.....	4
3.3 コマンド形式.....	4
3.4 リターンコード.....	4
4. Agent 停止コマンド	5
4.1 ツールの概要.....	5
4.2 コマンド格納場所.....	5
4.3 コマンド形式.....	5
4.4 リターンコード.....	5
5. Agent 再起動コマンド	6
5.1 ツールの概要.....	6
5.2 コマンド格納場所.....	6
5.3 コマンド形式.....	6
5.4 リターンコード.....	6

1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor が提供する運用支援コマンドについて説明するものです。

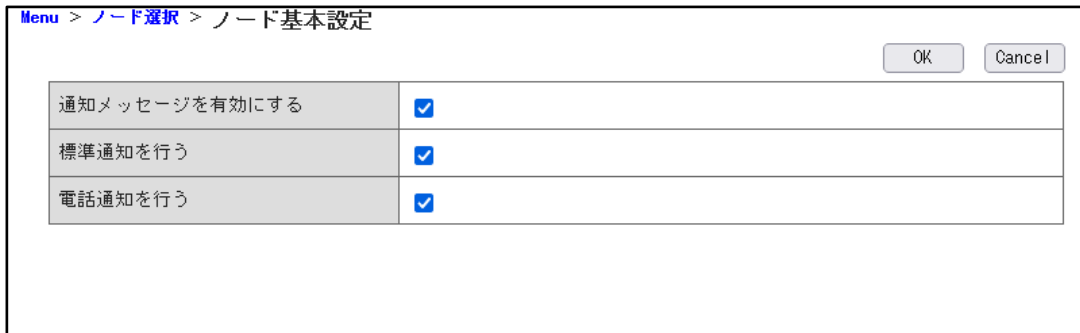
2. ChangeNotification コマンド

2.1 コマンド概要

本コマンドは、App Bridge Monitor Windows Agent がインストールされた環境で、実行サーバのノード通知情報を変更します。

コマンドは、実行サーバのノード通知情報変更データを作成します。作成されたデータは、App Bridge Monitor Windows Agent により、App Bridge センタに配信され、実行サーバのノード通知情報が変更されます。

本コマンドは、Web サイトのノード基本設定を操作する行為と等価です。



Menu > ノード選択 > ノード基本設定	
通知メッセージを有効にする	☒
標準通知を行う	☒
電話通知を行う	☒

2.2 コマンド格納場所

本コマンドは、App Bridge Monitor Windows Agent がインストールされたフォルダの CLI サブフォルダに格納されています。

2.3 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
ChangeNotification    [-w (true|false)]  
                      [-m (true|false)]  
                      [-p (true|false)]
```

引数	内容	仮定値
-w	「通知メッセージを確認する」を更新します。本引数を false とした場合、当該ノードの通知メッセージは「確認状態：抑止」で作成されます。この場合、-m、-p を true に設定できません	true
-m	「標準通知を行う」を更新します	-w の値を仮定値とする
-p	「電話通知を行う」を更新します	-w の値を仮定値とする

2.4 リターンコード

コマンドのリターンコードは以下のとおりです。

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	エラーが発生した	
16	予期せぬ障害が発生した	

3. Agent 起動コマンド

3.1 ツールの概要

本コマンドは、App Bridge Windows Agent を起動します。

App Bridge Windows Agent は複数のサービスで構成されており、本コマンドは正しい順番でサービスを起動します。また、本コマンドで起動された場合、Agent は起動時の待機を実施せず、すぐに処理を開始します。

3.2 コマンド格納場所

本コマンドは、App Bridge Monitor Windows Agent または App Bridge サポートツールがインストールされたフォルダの CLI サブフォルダに格納されています。

3.3 コマンド形式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
BRGSRVStart [-q (true|false)]
```

引数	内容	仮定値
-q	実行確認の省略可否を指定する	false（実行確認を実施する）

3.4 リターンコード

コマンドのリターンコードは以下のとおりです。

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
4	利用者の要求で中止	
8	引数にエラーが発生した	
12	重大な障害が発生した	

4. Agent 停止コマンド

4.1 ツールの概要

本コマンドは、App Bridge Windows Agent を停止します。

App Bridge Windows Agent は複数のサービスで構成されており、相互間で監視しています。本コマンドは正しい順番でサービスを停止し、相互監視を制御し、サービス停止のエラー発生を抑止します。

4.2 コマンド格納場所

本コマンドは、App Bridge Monitor Windows Agent または App Bridge サポートツールがインストールされたフォルダの CLI サブフォルダに格納されています。

4.3 コマンド形式

コマンドの形式は以下のとおり。

```
BRGSRVStop [-q (true|false)]
```

引数	内容	仮定値
-q	実行確認の省略要否を指定する	false (実行確認を実施する)

4.4 リターンコード

コマンドのリターンコードは以下のとおりです。

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
4	利用者の要求で中止	
8	引数にエラーが発生した	
12	予期せぬ障害が発生した	

5. Agent 再起動コマンド

5.1 ツールの概要

本コマンドは、App Bridge Windows Agent を再起動します。

基本的な動作は、BRGSRVStop コマンド、BRGSRVStart コマンドと同じですが、コマンド起動時に Agent が停止していた場合、起動しません。

5.2 コマンド格納場所

本コマンドは、App Bridge Monitor Windows Agent または App Bridge サポートツールがインストールされたフォルダの CLI サブフォルダに格納されています。

5.3 コマンド形式

コマンドの形式は以下のとおり。

```
BRGSRVRestart [-q (true|false)]
```

引数	内容	仮定値
-q	実行確認の省略要否を指定する	false (実行確認を実施する)

5.4 リターンコード

コマンドのリターンコードは以下のとおりです。

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
4	利用者の要求で中止	
8	引数にエラーが発生した	
12	重大な障害が発生した	